

わが友、早野俊明先生を悼む

白鷗大学法学部長 清水正義

早野俊明先生は平成15年4月に白鷗大学に赴任して来られた。専門分野が違うこともあり、当初私は早野先生とそれほど親しくはなかった。先生は家族法を専門とされ、ステップファミリーについての研究をされていた。同僚の先生から早野先生のご本をいただいたとき「ステップファミリーに関する代表的研究者になる方だ」と聞いて、すごい方なのかなと思った程度だった。先生からも専門分野についてお話を聞くことはなかったが、あるとき先生のゼミにお邪魔させてもらう機会があり、学生が生殖医療や離婚訴訟などに関わる専門的報告をするのを聞いて、正直に言う自分のゼミよりずっと面白いなと感じた。

私が早野先生とゆっくり話す機会を持ったのは法科大学院入学試験で早野先生と私が組んで受験者面接を行ったときだった。最初の年だったこともありずいぶん多彩な受験者がいたが、そういったことを早野先生とおしゃべりした。私は早野先生がもっとずっと若い方だと思っていたのだが、話しの途中で早野先生が「だってもう私45（歳）ですよ」とおっしゃったのを妙に記憶している。若いのにしっかりした態度をされる方だというような話を私がしたのだと思う。実際、早野先生は年よりもずっと若々しく、温厚だがシリアスな印象をもたれる方だった。その後も早野先生とは時に応じてお話をさせてもらったが、とくに学部内の人間関係や教授会での審議事項についてずいぶん話し合った。そのたびに早野先生は的確で、人間的な、正義感あふれる話しぶりだった。

早野先生とは飲み会の席でもずいぶんごいっしょさせていただいた。あるとき早野先生は飲み屋の席ではあったが妙に深刻に法学部の将来のこと

を語っておられた。「こんなことじゃ駄目ですよ」と熱弁をふるう早野先生を私はいつも好意的に見ていた。率直にものを語る人で、齒に衣着せぬ話し方に私は圧倒された。ずいぶんいろいろな人物評も聞かせてもらった。

何年か経ち、早野先生と私はFD委員会の委員として再び顔を合わせる機会が増えた。早野先生は法科大学院でもFD活動を進められており、学部とは次元の違う活動に長けておられた。そうした経験から先生は学部FD活動にも積極的に関わり、私どもに貴重な助言をして下さった。学生の授業評価アンケートを学期中間に行い、批評をすぐに授業で返して学期末に学生の評価を待つというような案も先生が考えて下さった。私が法政策研究所長の仕事を引き受けたときも早野先生が委員としていっしょにお手伝い下さった。これは少しオフレコに近い話だが、研究所で台湾の法律家と研究会を持つとき私が若い先生に助力をお願いしたことがあった。その若い先生はたまっていた仕事があり難色を示したのだが、そのとき早野先生は私に「先生そんなのじゃ駄目だ、やらせなきゃ」とハッパをかけて下さった。そんな風に早野先生は私に対してかなり率直に背中をたたき、アドバイスをくれた。私はそんな早野先生にとっても好感を持ち、ずいぶん頼り、助力をいただいた。

かなり激しい議論になったこともあった。早野先生がもう一人の先生と法政策研究所の助成金を申請したときのこと。早野先生は前年度にも申請が受理されており、この場合、連続して受理はできないとの申し合わせが過去にあった。その旨を申し上げて先生にお断りの連絡をしたところ、他に申請者がいるならとにかく、いない以上は例外措置として認められるのではないかとの「理論」でたびたび私と議論になってしまった。早野先生のお考えもごもっとも私は思っていたが、研究所長の立場からは前例を踏襲せざるを得なかった。早野先生はそれでも納得せず、いろいろな議論を「発明」して食い下がった。さすがに法律の先生は違うなと妙に感心し

たことを覚えている。結果的に早野先生が折れてくれたのは私の立場を慮ってのことだったろう。鋭角的議論と人間的配慮をあわせ持つ方だった。

早野先生のご病状について私が聞いたのは2011年3月のことだった。実にショックで、まさかと思った。ただ、それ以後も早野先生は表面上は元気にされ、お酒はやらなくなったが、酒席へのお付き合いは続き、ずいぶん楽しくおしゃべりをさせてもらった。一方で心配しながら、他方、早野先生とこんな風に談笑するのが楽しみでもあった。

2016年8月、教授会で早野先生の後期授業休職の件が議題になり、先生の病状が悪化しているのを知った。これまでお話を伺ってはいたが、何となく大学でも気軽にお話をさせていただいて、そんなまでとは知らなかった。実に自分の不明さを恥じ入るばかりである。ともかくお身体をいたわり、少しゆっくりしていただきたいと思っていたところ、9月、ご逝去の知らせをいただいた。愕然とし、しばらくは考えることもできなかった。そこまで悪くなっていたのか。病室に見舞うこともせず、自分は何と無頓着であったことか。そう考えて自分を責めた。

早野先生は白鷗大学で私が知る最も善良で深刻で真面目な人だった。学内で早野先生ほど腹を割って話ができる人はいなかった。実に大切な、かけがえのない友人、同僚を失ってしまった。9月19日、通夜の焼香を済ませ、ご家族に短いご挨拶をしようと声を出した瞬間、本当に涙が抑えられなくなり、急いでその場を離れた。さようなら早野先生、わが友。間違ったことを断固指摘して闘う姿を私は忘れない。